

第6章 「まなびやコンビナート・京都」の創出に向けて

*50) コンビナートは、本来、関連産業を一つの企業に結合させて、多角的・一貫的に経営すること、企業結合を意味するが、ここでは、ハード、ソフト両面での学習機能結合として用語を使用している。

最後に、本社会教育委員会議では、この答申を総括するキーワードとして「まなびやコンビナート*50・京都」の創出を掲げる。

京都市内には、幾重にも学術・文化の堆積が見られ、それは、教育機能を有する様々な行政施設や街角の博物館、神社仏閣、あるいは路傍の史跡や自然の中にさえ息づいている。私たちは、極めて文化の香り高い土壌の上に日々の生活を営んでいるのである。

そうした学習支援機能を有する「ひと」「もの」「こと」のすべてを接合、あるいは複合させ、学びの文化を市民のだれもが享受することができれば、この都市は、改めて「文化複合都市」として、また「世界文化自由都市」としてはばたくことが可能となるのではあるまいか。まなびやとまなびやをつなぎ合わせ、一つの学習体系として接合する努力を行政に求めたい。

本答申が、今日の生涯学習施策の任務・課題を明確に保持し、行政内部はもとより、広範な市民と共有され、総合的な学習支援を体系的に実施していくための計画に反映されることを願うものである。

無論、そのためには、生涯学習施策を総合行政として再認識するための行政内部の意識の高揚、学校教育と社会教育の両者を有機的・総合的に結び付ける役割を担ったものであることを再認識するための教育関係者の意識の高揚が不可欠であることを進言して、まとめとしたい。